

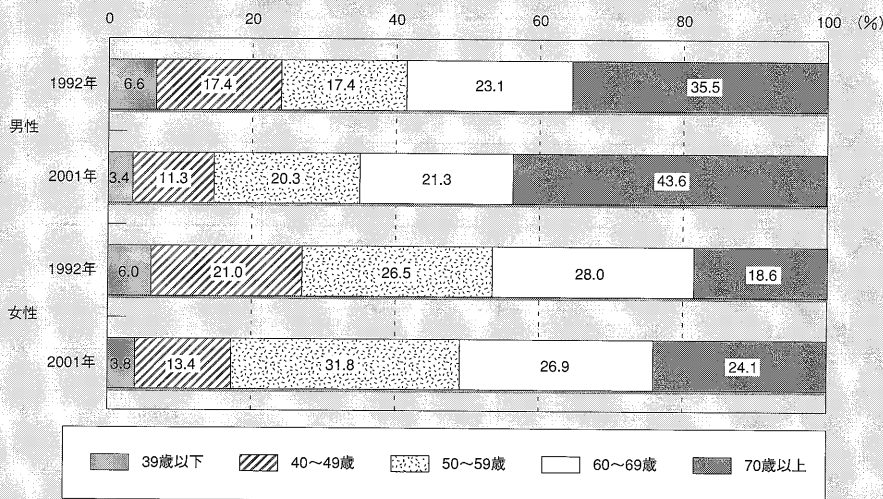
- また、各地で「老人大学校」の運営が行われているほか、大学で正規の課程に高齢者枠を設ける動き等も出てきており、そのような形も含めて、今後とも高齢者の生涯学習について多様な選択肢が確保されるような動きが進むことが期待される。

第3節 高齢者介護問題への対応の現状と課題

<介護する側の高齢化、長期間にわたる介護の実態等>

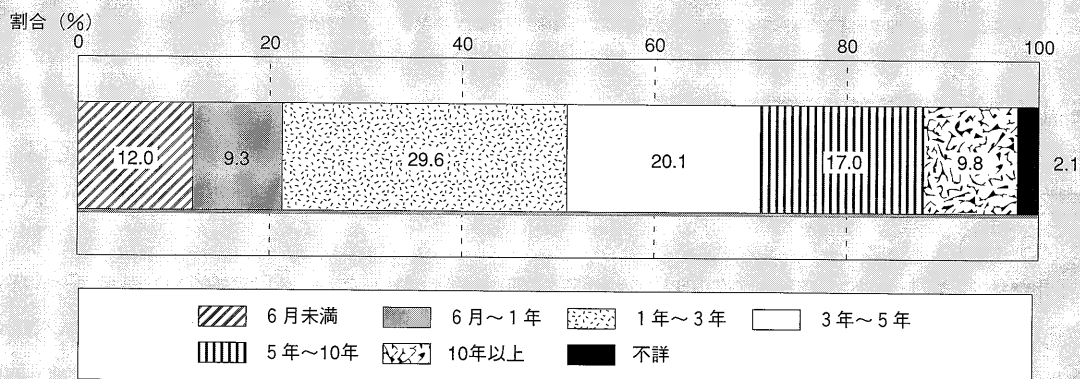
- 65歳以上の要介護者等と同居している主たる介護者の状況をみると、全体として高齢化が進んでいることがわかる（図表1-3-2）。
- 屋内でも何らかの介助を要する状態（いわゆる「寝たきり」の状態を含む。）となってからの期間が3年以上である65歳以上の者が、全体の約半数となっている（図表1-3-4）。また、主たる介護者が介護を行っている時間をみると、「ほとんど終日介護」という回答が2～3割となっており、介護に関する負担の大きさがうかがわれる。

図表1-3-2 65歳以上の要介護者等と同居する主たる介護者の年齢構成



資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「国民生活基礎調査」から政策統括官付政策評価官室作成

図表1-3-4 65歳以上の者について手助けや見守りが必要となってからの期間



資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「国民生活基礎調査」（2001年）から政策統括官付政策評価官室作成
 (注) 手助けや見守りが必要な者のうち、屋内での生活に何らかの介助を要したり1日中ベッド上で過ごしたりといった状態にある者についての割合である。